

## 退職教員からのメッセージ

### 岩手県立大学幼稚園教職課程8年の軌跡



咲 間 まり子

幼稚園教諭、重度障害児施設教諭、小学校教諭を経て大学で学生指導に関わり、30数年間の教員生活を岩手県立大学で一区切り付けられることを、心から感謝申し上げます。特にこの岩手での8年間は、初めて訪れた地域ということもあり戸惑うことも大きかったですが、素直で勤勉な学生や、良き先輩、同僚に恵まれ、研究生活も充実した8年間でした。

岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科では、平成19年度入学生より「幼稚園教職課程（一種免許）」が認可され、従来から養成していた「保育士資格」に併せて「幼稚園教諭一種免許状」を同時に取得することが可能となつて8年が経ちました。

8年前というより、多分その2年前位より新教職課程設立のために教員の皆さまはご尽力なさっていたことと思いますが、私は岩手県立大学に初めて幼稚園教職課程ができ、その担い手として採用されました。時間割は出来上がり、講義も赴任初年度から開設されておりましたが、様々な事が開設と平行に進められておりました。特に幼稚園教育実習がその最たるものでした。実習先は確保されておりましたが、実習前指導に使用する学生への「幼稚園教育実習ガイドブック」や実習先にお渡しする「幼稚園教育実習指導の手引」等はありませんでした。その作成を依頼され、何とか作成し、それを毎年見直し、現在に至っております。最初の1・2年は「・・・してください」、「・・・作成してください」と依頼されることが多く、自分の力に関係なく、ただがむしゃらに引き受け、やってきました（やらざるを得ない状況でした）。これらは、まわりの教員の皆さまのご配慮、ご協力によって何とか務めることができました。

児童福祉実習巡回で実習先にお尋ねしても、岩手県立大学では幼稚園免許が取れるのですかと尋ねられ、岩手県立大学では幼稚園教諭一種免許状が取得できることを知らしめることも私の仕事の一部でした。当時

も今もそうですが、幼稚園教職課程のための教員採用であっても、幼稚園課程の実習、講義はもちろん、児童福祉関連の実習、講義も幼保課程の教員の皆さんで担っております。そういう意味では幼保課程は、幼保課程教員の皆さんの手作りの課程と言えます。

保育者を養成する者として一番心に響いたのは、初めて幼稚園教育実習に出して、その実習巡回での園長先生からの一言でした。

「県立大学は社会福祉学部の中で保育者を育てているせいか・・・。もう少しピアノが弾けて、制作ができると良いですね」

続けて

「他大学からの実習生は幼児学科なのでその専門だから・・・。」

この言葉は私にとって保育者養成の原動力になりました。社会福祉学部だからこそ、他の大学にはできない保育者養成ができることを示していかなければと考え、以下の点を重点に教えてきました。

乳幼児期は、知的・感情的な面でも、また人間関係の面でも、日々急速に成長する時期でもあるため、この時期に経験しておかなければならないことを十分に行わせることは、将来、人間として充実した生活を送る上で不可欠です。したがって、乳幼児教育は、次代を担う子どもたちが人間として心豊かにたくましく生きる力を身に付けられるよう、生涯にわたる人間形成の基礎を培う普遍的かつ重要な役割を担っているのです。

保育者を目指す学生が、近年の子どもの育ちの変化や社会の変化に対応し、幼稚園・保育所の機能をいかした子育て支援ができるように、保育者として必要な資質や技能を身に付けられよう講義の中で、普段の生活の中で話をして参りました。

昨今、少子高齢化、女性の社会進出、価値観の多様化、種々の社会改革の進行、消費中心の生活、複合家

族から核家族へという家族形態の変化や、地域共同体の変化等は、家庭生活や子どもの育ちに大きな影響をもたらしてきています。青少年による憂慮すべき悲惨な事件の発生やいじめ・虐待問題など多くの課題を社会に投げかけ、あらためて乳幼児期の在り方が重要視されてきています。

それらを背景に、保育のあり方も対応の仕方も当然変わらざるを得ない状況が出てきました。保育者養成においても、時代のニーズに沿った多様な保育サービスに対応することのできる質の高い保育者の養成が求められています。いわゆる、ソーシャルワーカー的な保育者が地域では求められているのです。

岩手県立大学社会福祉学部だからこそ、これら必要な資質や技能を身に付けさせられると考えて教えて参りました。

ご指摘のあったピアノについては、非常勤講師の先生に講義の無い時間帯に教えて頂けるようお願いをして快諾を得られました。制作面では、現場の先生をコメンテーターとして呼び出して、様々な制作物に挑戦してきました。

お忙しい中、学生を受け入れていただいた県内外の実習先関係者のみな様の辛抱強いご指導もあって、その成果が少しずつ出てきているように感じられます。心からお礼を申し上げます。

平成27年4月から子ども・子育て支援新制度の実施が予定されており、国・地方自治体において新制度に向けた準備が進められておりますが、その中でも、質の高い幼児期の教育・保育の提供を求められています。さらに、核家族の進行、親の価値観の変化により家庭のライフスタイルが多様化し、子どもを取り巻く環境の変化による多様な保育ニーズに対応していくことが重要となります。それはそこで働く幼稚園教諭・保育士にも言えることです。保育者の安定的な確保・定着のためにも、早急にキャリアを評価する仕組みを整えることが大切になってきます。同時に保護者においても、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげ、子育て支援や地域における育児力の向上のための取組、また「ワーク・ライフ・バランス」の実現が求められます。幼稚園・保育所に働く保育者にとっても、そこを利用する保護者にとっても、働き方を含めて「ワーク・ライフ・バランス」が必要です。保育の質の向上は人が作り上げるものです。子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることができるような支援、働

きやすい環境、これらが人を成長させ、保育の質の向上につながると考えます。

平成27年4月から始まる岩手県立大学幼稚園教職課程9年目は、単に幼稚園教諭を育てるだけではなく、これらを見据えて、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供として、幼稚園と保育所の良さをあわせ持つ「認定こども園」に対応できる保育者養成としてスタートさせる必要があります。

私自身岩手県立大学での幼稚園教職課程の8年間の教育は、反省すべき点が多く、私の心がけていたことがどのくらい学生に伝わったのか分かりません。

アメリカのJ.P.ギルフォード博士は「得た知識を自分で考え、形に表現する総合的な力「知能」を育てる」ことが教育であると考えました。知能を育てるには、子ども自らが自発的に、やる気を持って取り組むことが何より重要です。子どものやる気を引き出せる、そんな教育者(保育者)を育ててほしいと願います。

最後になりましたが、この8年間、幼稚園教職課程実施にあたりまして、かけがえのない教育の場を与えてくださいました実習先の教職員のみな様、公私にわたりご指導、ご鞭撻を賜りました社会福祉学部の教職員の皆さまに心よりお礼申し上げます。皆さまのお力沿いで今日まで勤めることができました。ありがとうございます。